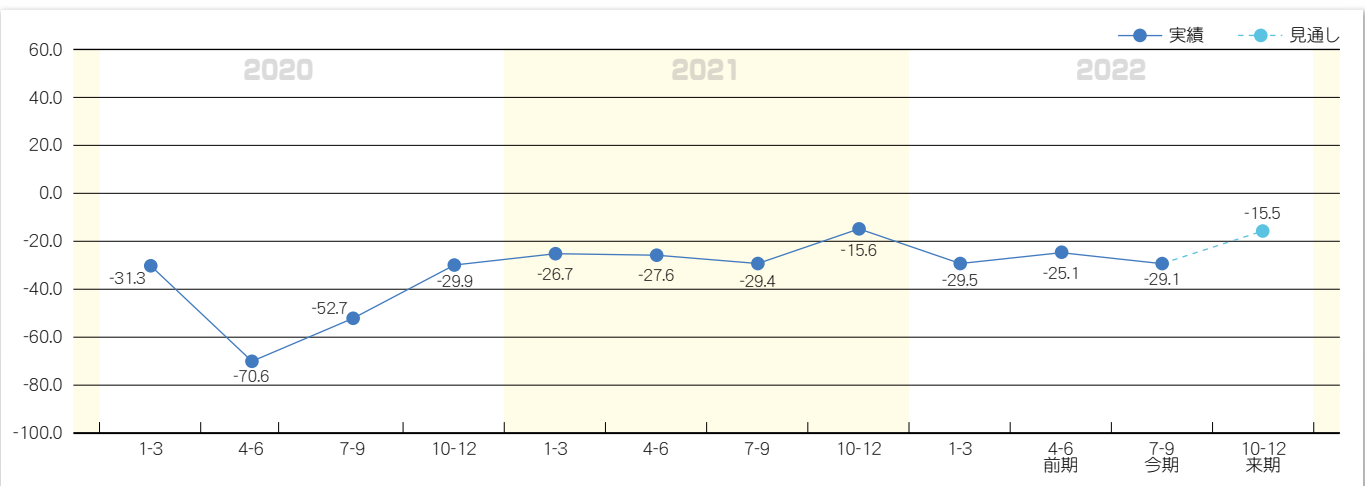


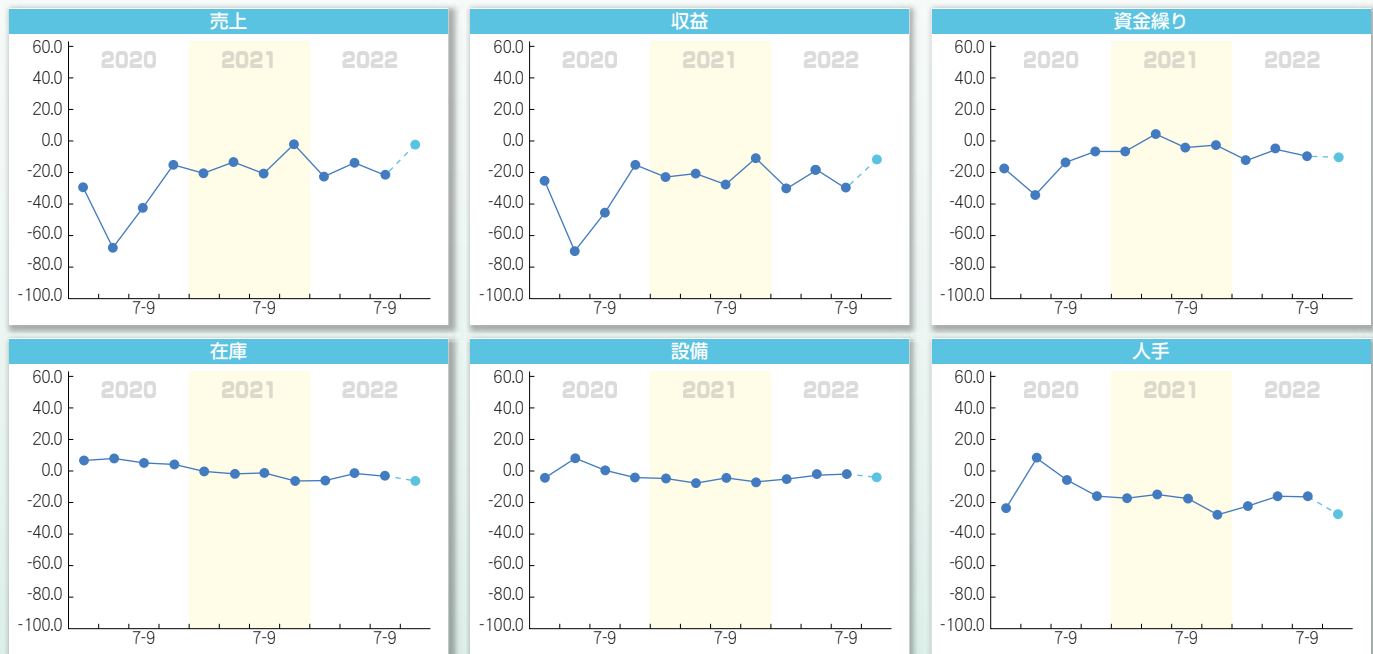
全業種

回答数330社

今期の業況D-Iは、前期比4.0ポイント低下の▲29.1。建設・不動産業を除くすべての業種で悪化。来期の予想業況D-Iは、13.6ポイント上昇の▲15.5と、改善の見通し。製造業中心に業況改善を見込む。一方で、すべての業種で人手不足への対応を課題に掲げている。



主要D-Iの推移 (注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

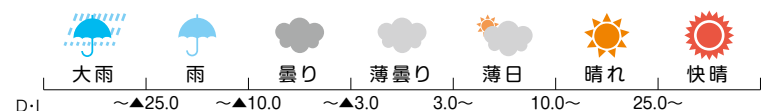


へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査概要
 実施時期 2022年9月1日～7日
 対象企業 330社
 対象地域 西三河および尾張南部を中心とした当金庫の営業エリア

天気図の見方

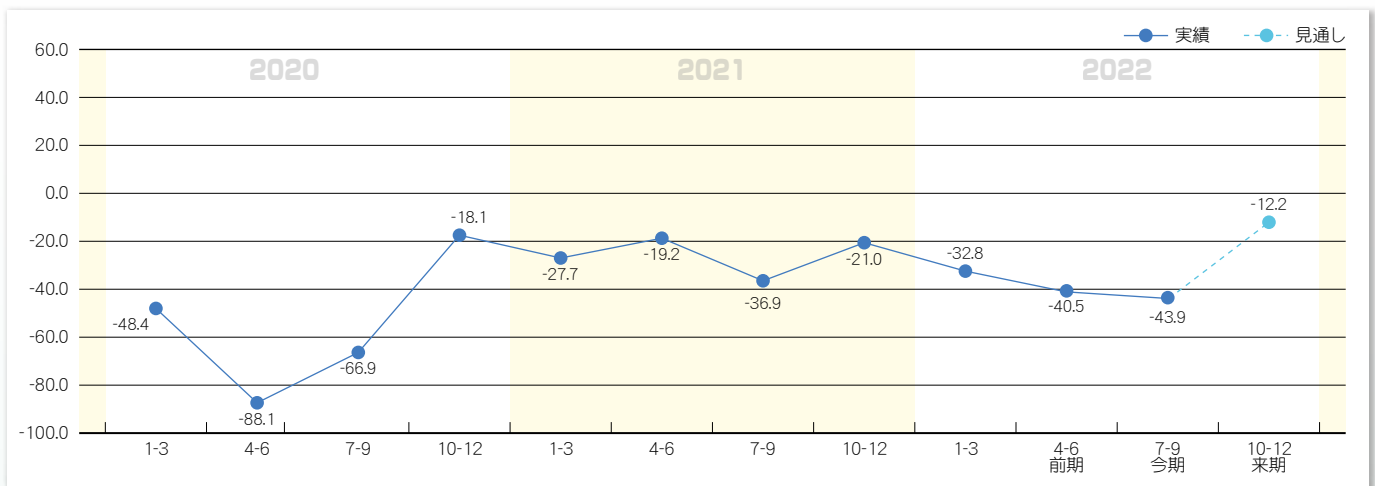


D-I(ディフュージョンインデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、(良いまたはやや良いと答えた割合)-(悪いまたはやや悪いと答えた割合)で求められます。

製造業

回答数123社

今期の業況D・Iは、前期比3.4ポイント低下の▲43.9と、三期連続で悪化。円安やウクライナ情勢等による原材料価格の高騰や、自動車の生産調整等が影響した。来期の予想業況D・Iは31.7ポイント上昇の▲12.2と大幅改善の見通し。原材料費の価格転嫁、生産調整の緩和等により業績回復を見込む。



主要D・Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



調査員のコメント



- 9月以降のトヨタ自動車の増産計画には、現状の人員では対応が難しい。当面はシルバー人材等で人材を確保する。(自動車部品製造)
- コロナ再拡大により人の移動が減り、売上が低下。海外への販路拡大を模索中。(繊維製品製造)
- 仕入価格は上昇しているが、今後は販売価格へ転嫁することで、収益確保を見込んでいる。(印刷)

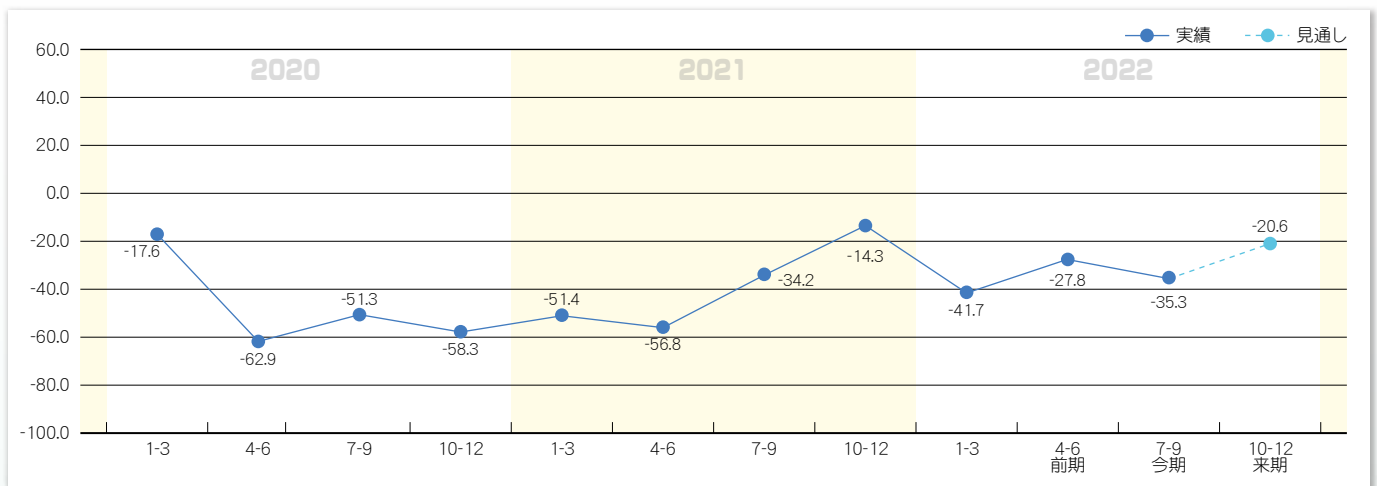


卸売業

回答数34社

今期の業況D・Iは、前期比7.5ポイント低下の▲35.3となり、悪化。売上D・Iは増加する一方で、収益D・Iは減少しており、仕入価格の上昇が収益を圧迫している可能性がある。販売価格への転嫁や経費削減等、収益確保に向け取り組む企業もみられる。来期の予想業況D・Iは14.7ポイント上昇の▲20.6と、改善の見込み。

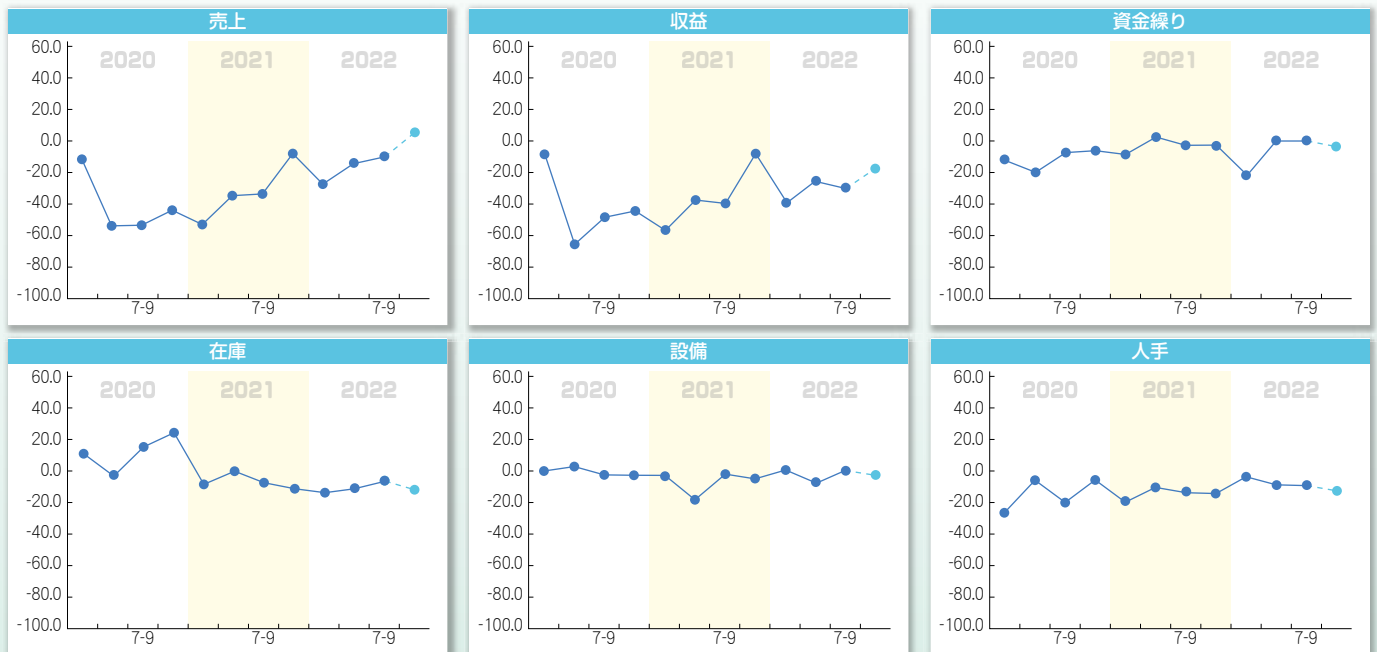
前期実績 今期実績 来期見通し



主要D・Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



調査員のコメント



- 資材の高騰等の外部影響は受けているが、販売価格の見直しで対応しており、売上・利益とも順調に推移。(土木資材卸売)
- 電気代が2倍かかるようになり、コスト削減に努めている。(食品卸売)
- 仕入価格が大幅に上昇しており、納品先への価格引き上げ交渉に苦慮している。(コンクリート卸売)



小売業

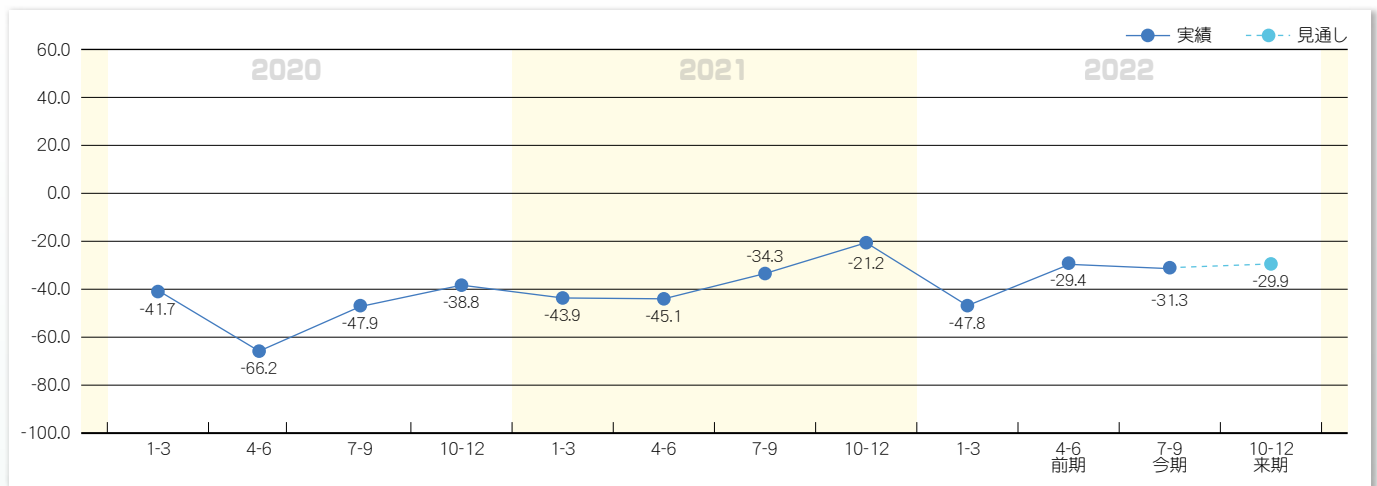
回答数67社

今期の業況D・Iは、前期比1.9ポイント低下の▲31.3と、わずかに悪化。コロナ禍の長期化や仕入価格の上昇等が、売上、収益に大きく影響。来期は、売上・収益回復を見込むが、予想業況D・Iは1.4ポイント上昇の▲29.9と、ほぼ横ばいの見通し。先行きに対し依然厳しい見方の企業が多いことがうかがえる。

業況D・Iの推移

	2020				2021				2022			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
業況D・I	▲41.7	▲66.2	▲47.9	▲38.8	▲43.9	▲45.1	▲34.3	▲21.2	▲47.8	▲29.4	▲31.3	▲29.9

前期実績 今期実績 来期見通し



主要D・Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

●実績 ●見通し



調査員のコメント



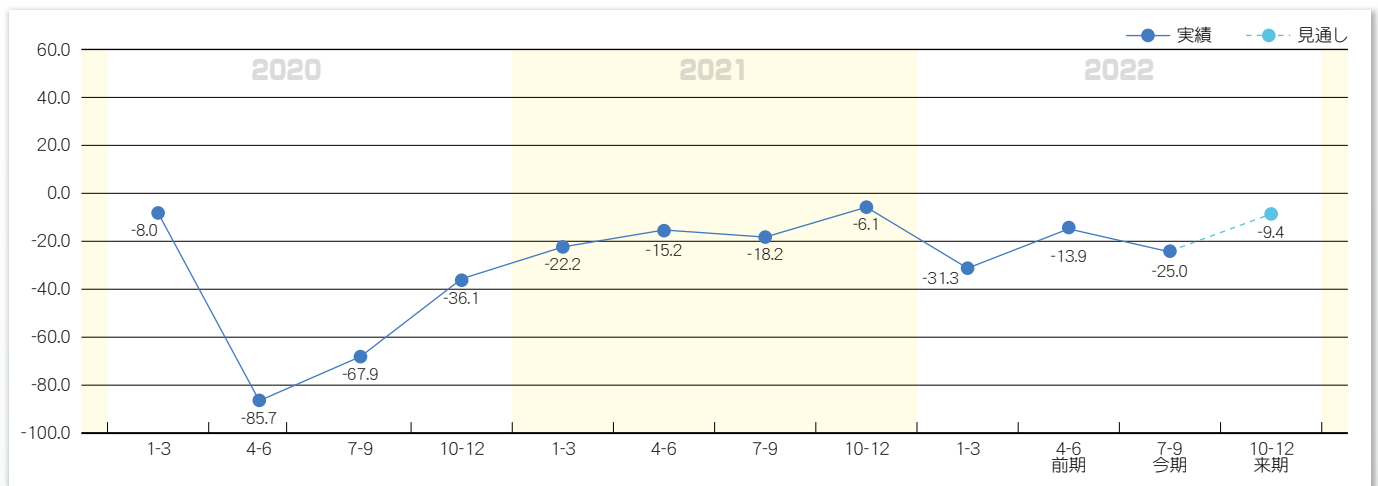
- コロナ禍の長期化で来店客が増えず、未だかなり厳しい状況。(飲食店)
- 仕入価格の上昇に伴い、利幅が減少している。販売価格の改定交渉は苦戦中ではあるが、年内には価格転嫁を完了する見込み。(食品販売)
- 7～9月は従業員の多くがコロナウイルスに感染した影響もあり、業況が少し悪化。商品の仕入が困難な状況が続いている。(自動車販売)



サービス業

回答数32社

今期の業況D・Iは、前期比11.1ポイント低下の▲25.0となり、悪化。コロナ再拡大や、原材料・仕入価格高騰の影響を受け、業況は依然厳しい。来期は、業績回復が見込まれ、予想業況D・Iは15.6ポイント上昇の▲9.4と、改善の見通し。



主要D・Iの推移

(注)設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



調査員のコメント



- 売上は上昇傾向であるが、原油価格高騰の影響で利益は減少している。補助金を活用した機械の導入で利益率上昇を図っていく。(クリーニング店)
- 先期は回復傾向にあった売上が、コロナ第7波の影響で減少している。(旅客運送)
- 売上は安定しているものの9月から一部値上げを予定しており、今後に不安がある。(エステティックサロン)



建設・不動産業

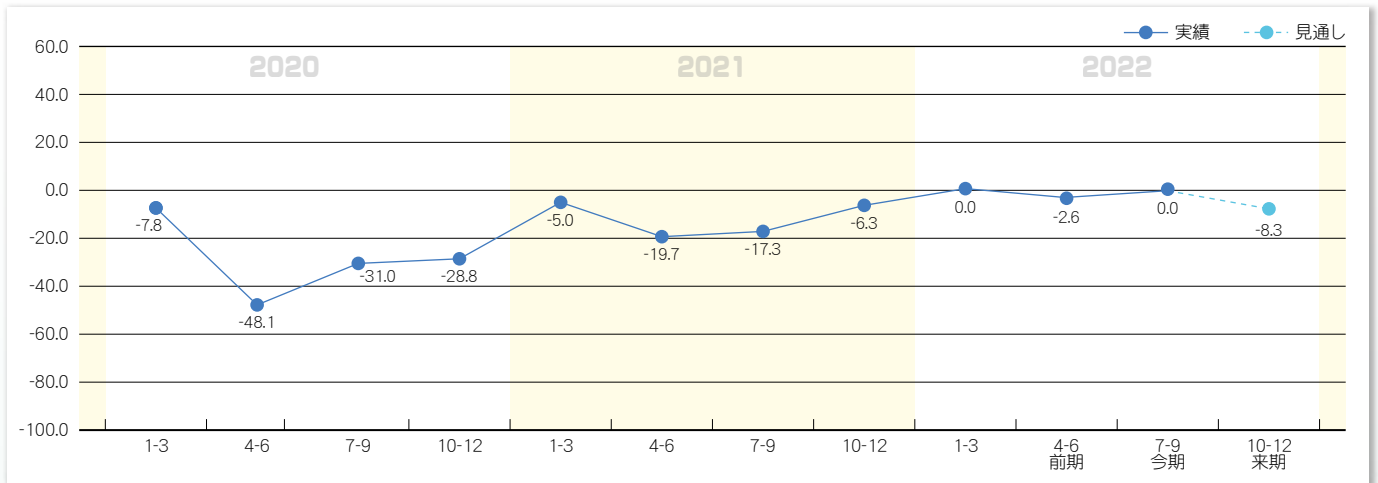
回答数72社

今期の業況D-IIは、前期比2.6ポイント上昇の0.0と、わずかに改善。材料価格高騰の影響等により、売上D-I、収益D-Iともに悪化。先行き不透明感から来期の予想業況D-IIは8.3ポイント減少の▲8.3と、悪化の見通し。

業況D-Iの推移

	2020				2021				2022			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
業況D-I	☁	☔	☔	☔	☁	☔	☔	☁	☁	☁	☁	☁

前期実績 今期実績 来期見通し



主要D-Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

●実績 ●見通し



調査員のコメント



- 受注は回復傾向にあるも、仕入価格等の高騰により、利益は減少。先行きは不透明。(建設工事)
- 民間工事、公共工事ともに順調に推移。人手不足のため、採用活動に力を入れている。(土木)
- 木材価格および燃料コスト上昇に対応するため販売価格の改定をしているが、単に値上げするだけでなく、商品に付加価値をつける等の工夫をしている。(建設業)